

昆虫食って？

コオロギパウダーなどを使用した食品(いわゆる昆虫食)に関心が持たれています。個人的には苦手ですが…。

昆虫食にはサソリ、カイコの蛹、セミなどのバリエーションもあります。現在は興味本位で選ばれている食用昆虫も、そう遠くない未来には生きるために選ぶことになるかもしれません。今回は気になる昆虫食の情報を紹介します。

●昆虫食の背景

世界の人口は2050年には97億人(2011年70億人)に達すると予測されています。国際連合食料農業機関(FAO)は、増加する食料需要と所得の増加に伴う肉食化を賄うためには、現在の二倍もの食糧生産が必要になると述べています。

これまでは、生産性の向上や農地の拡大によって食料を増産してきましたが、そろそろ限界を迎えているとも言われています。

早ければ2030年には「たんぱく質危機」が起こると危惧されていますが、これ以上牛や豚など畜産動物の増産をするために必要な飼料を生産する農地と水の確保も難しくなっています。

●昆虫食への期待

食用昆虫にはたんぱく質が豊富に含まれていることから、牛や豚などに変わる新たなたんぱく源として注目を集めています。

コオロギは変温動物で無駄なエネルギーを使わず雑食で飼育が楽なうえ、たんぱく質の原料となるアミノ酸のバランスが良く、牛に比べ必要なエサは1/12、水は1/52、炭酸ガスやメタンガス等温室効果ガスの排出量は1/1780と生産効率が高く、環境負荷が低いようです。

日本では一部の地域で蜂の子やイナゴを食べる文化がありますが、食の西洋化に伴い、昆虫食のハードルは高くなっているかもしれません。

2021年名古屋大学医学研究科が、食用昆虫の農薬や重金属の残留実態調査を行いました(東海コープの商品検査センターも調査に協力)。食用昆虫は食用として管理された環境で飼育されているので特に問題となるような結果はありませんでした。(最近ではコオロギの卵から成虫まで管理された閉鎖空間で飼育され、安全性は進んでいます)

それ以前に、現在の食糧問題を考えることも大切です。フードロス、持続可能な国内の農林水産業…。商品案内の「コープの森づくり」マークはそんな商品の一つです。

東海コープ
ホームページに
「おいしくって、
安全なおはなし」の
バックナンバーが
あります。



2022年
12月3週
(51号)

東海コープからの

おいしくって、
安全なおはなし

